

備前市施策評価シート

(平成18年度事業)

施策名 (小項目)	上水道及び簡易水道	コード	作成者	役職	水道工務課長
		01-01-09	氏名	川辺健作	
			電話	66-9793	

備前市総合計画の内容から記載する

施策の体系	大項目(基本目標)	安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目(基本施策)	生活しやすいまちづくり
施策の対象と目的 (誰のために、何のために)	市民に安全で安定した水道水を供給するために、更なる水質の向上と効率的な運転管理、そして広範囲にわたる水道網の適正な維持管理を行なうことにより、公衆衛生の向上と生活環境の改善を図る。	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	上水道は、計画給水人口60,300人、1日最大給水量43,250m <sup>3</sup> の能力があり、吉井川、金剛川を水源とし、水量水質とも恵まれているが、簡易水道はいづれも小規模な運営となっている。給水人口は、昭和53年を境に毎年減少し、水利用も低落傾向の中で施設の稼働状況は50%を下回っており効率が悪い。また、原水汚染や需要者ニーズの高度化、多様化に対応するため、施策の効率的な運営を図るとともに徹底した水質管理を行なう必要がある。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の計画的な整備</li> <li>水質管理に徹底</li> <li>震災・災害などに対する施設整備</li> <li>環境対策と水の安定供給</li> </ul>	

施策構成事務事業の評価

担当課長評価

施策を構成する事務事業名	事務事業 評価結果 A~E (高~低)	細事業一覧表	事業費(単位:千円)						優先順位 その他	
			H17		H18		H19			
			直接 事業費	人件費	直接 事業費	人件費	直接 事業費	人件費		
1 上水道管理運営事業	A	水道施設整備等策定事業	ソフト事業	2,940		4,935				
		水道施設維持管理運営事業	維持管理	183,580		158,974				
		水道施設建設事業	ハード事業	37,578		171,997				
		水道施設改良事業	ハード事業	204,439		99,069				
		日本水道協会会費	ソフト事業	172		174				
		日本水道協会中国四国地方支部会費	ソフト事業	69	64,890	69	85,220			
		日本水道協会岡山県支部会費	ソフト事業	25		27				
		吉井川下流水利用連絡協議会会費	ソフト事業	22		23				
		吉井川坂根堰利用者協議会会費	ソフト事業	30		30				
		岡山県電力協議会会費	ソフト事業	16		16				
水道技術研究会センター会費	内部管理	100		100						
2 水道料金賦課徴収事業	C	水道料金賦課徴収事業	内部管理	46,991	42,480	43,085	42,195			
3 簡易水道事業管理運営事業	B	簡易水道事業管理運営事業	維持管理	30,938	12,199	27,928	5,967			
4 飲料水供給施設管理運営事業	B	飲料水供給施設管理運営事業	維持管理	8,064	8,749	9,600	6,010			
5 簡易給水施設管理運営事業	C	簡易給水施設管理運営事業	維持管理	6,894	2,510	9,386	2,891			
6 水質管理事業	A	水質管理事業	内部管理	5,538	11,781	6,056	11,564			

この施策に要した費用(人件費込、単位:千円)	H17	H18	H19
	670,005	685,316	

以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	その説明
水道工務課	浄水施設運転管理の民間委託を検討	浄水施設の運転管理をより効率的に行なうため民間委託を検討する。
水道工務課	遠方監視システムの構築	遠隔地の簡易水道施設を適正に管理するために遠方監視システムを構築する。

施策の評価

項目	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い			
	一次評価		二次評価	
	評価	判断理由	評価	判断理由
1 目的達成度	4	施設の更新計画を策定し、三石地区の配水池を改良することにより、地区の配水能力を改善することができた。	4	三石地区の配水地を改良し、配水能力の改善が図られたことにより有収率の向上につながったものと想定される。
2 事業構成の適当性	3	遠隔地の水道施設を適正に維持管理するため、機能更新と遠方監視システムの構築が求められる。	3	簡易水道や飲料水供給施設の事業統合を進める必要がある。
3 施策の有効性	4	安全で安定した水道水を供給するため、老朽化した施設の更新を適正に進める必要がある。	4	今後、施設整備計画に基づき施設の更新を計画的に行い、市民に安全で安定した水道水を供給できるよう努める。
今後の展開・協働の可能性・事業の見直し等の担当への指示	市民にとって重要なライフラインである水道の安全・安定を維持するために、水道技術者の適正な世代継承と、効率的な事業運営を図るために、民間委託の可能性を検討する。なお、今後の施設更新を図るために、適正な使用料金改定を推進する必要がある。		施設整備計画に基づき、計画的に施設の更新を図るとともに、健全で効率的な事業運営を図るために、外部委託の検討や、適正な使用料金改定を行う。特に、料金改定は今後の事業運営において必須であるため、工務課、営業課が連携し推進する必要がある。	
二次評価者コメント 役職 上下水道部長 氏名 田代 准	施策の目標達成度については一部の施設更新が進み安定してきているが今後も老朽化した基幹的な施設更新事業を進めていく必要があり、また簡易水道の上水道への統合も考えた事業運営を行える体制の推進を図りたい、その財源として料金改定を行い安定した事業運営を行うことが求められている。予算の方向性は施設の更新事業を実施するため重点配分をお願いしたい。			平成20年度 予算の方向性  重点配分

市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H19	H20	H21
重要度(%)	7.3		
満足度(%)	50.4		

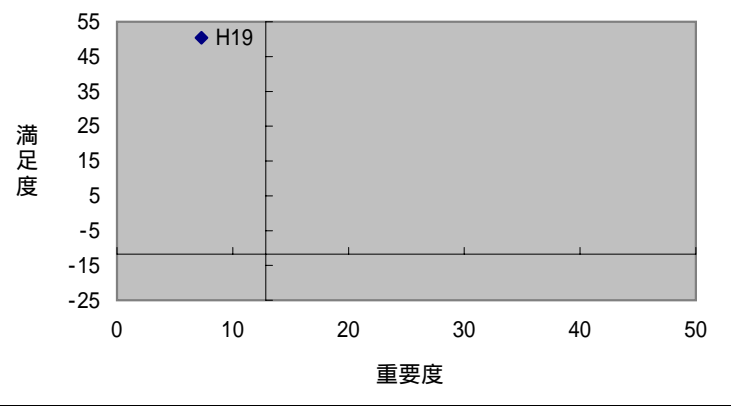
<見直し領域>  
その施策や事業が必要か否かの検討が必要

<維持領域>  
現状の方向を継続

<検討領域>  
その施策や事業の存続の検討が必要

<強化領域>  
内容等を見直し、市民満足度を高める事業を行う

重要度 ← 低 → 高



調査結果に対するコメント、市民の反応等  
 調査対象でない施策の場合は、市民の反応等  
 一般市民は、「水道の水」は蛇口をひねると常に出て当たりまえという感覚であり、それだけに常に安全で安定した飲料水の供給ができるように事業運営に努める。

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	評価年度		目標値		ベンチマーク	指標の説明
		H17	H18	H23	H28		
1 年間有収率	目標	%	91.9	85.9		90	H17年度全国平均(企業年鑑)
	実績	%	89.5	92.0		90	
	達成率	%	97.4	107.1		86	
2 施設利用率	目標	%	50.0	50.0		60	同上
	実績	%	44.4	41.5		60	
	達成率	%	88.8	83.0		60	
3 年間給水量	目標	千m <sup>3</sup>	7,255	7,140		6,015	H23、28の目標値は見込値
	実績	千m <sup>3</sup>	7,012	6,556		5,869	
	達成率	%	96.7	91.8			
4 給水人口	目標	%	60,300.0	60,300.0			
	実績	%	41,311.0	40,657.0			
	達成率	%	68.5	67.4			